

平成 30 年度

第 1 回 南伊豆町総合教育会議議事録

日 時 平成 30 年 5 月 21 日 (月) 13 時 25 分から 15 時 14 分

場 所 南伊豆町役場 3 階 会議室

出席者	町 長	岡 部 克 仁
	教 育 長	佐 野 薫
	委員長職務代理者	下 村 和 雄
	委 員	白 井 善 吾
	委 員	萩 原 利 恵 子
	委 員	井 上 誠 也

説明出席者	事 務 局 長	大 野 孝 行
	学 校 教 育 係 長	白 井 秀 治
	社 会 教 育 係 長	渡 邊 信 枝

傍聴者 なし

1 開 会

大野事務局長 開会宣言

岡部町長 挨拶

大野事務局長 議長は町長が務める旨述べ、進行を議長に依頼する。

2 議 事

岡部議長 議事録署名人について、教育長及び議長が務めることを述べ、議事に入る。

議事 (1) 中学校の統合について事務局の説明を求める。

大野事務局長 本日は、将来的に訪れるであろう中学校の統合問題を踏まえ、現状及び課題について説明する。

一通り説明した後、フリートークで委員の思い、考え方等を伺いたい。今日は、いつまでに統合するであるとか、場所はここにするとか結論を出す機会とは捉えていない。こういうことに配慮してほしい、こういう点はどう考えるのか等、課題の整理、問題提起の場と考えている。概ね1時間程度の協議をお願いします。詳細は学校教育係長から説明させる。

白井係長 資料に基づき説明。

2ページ、平成30年度賀茂地区乳幼児・児童・生徒数について、6年後の小学生数を見てみると南上小学校は増加している。

3ページ、町内中学校生徒数の推移を見てみると、今年度は南伊豆中111人、南伊豆東中74人、2022年あたりから生徒数が減少してくる。

5ページは、統合した場合の学年別生徒数、学級数を示したもの。これにより必要な教室数を算出。校舎については、新校舎建設よりもどちらかの校舎を利用していくのが現実的。しばらくは特別支援学級を含め8学級であるが、平成41年度（2029年度）には7学級、42年度には6学級と推移していく。

6、7ページは両校の教室配置図。いずれにおいても8教室確保は可能。

8ページは現在の部活動の種目表。現状の部活種目の活動場所は両校とも小学校体育館・グラウンドの活用により対応可能。

9・10ページは通学バスのバス路線時刻表。いずれにおいてもなんとか対応可能であるが乗り換えが発生する。

11ページは削減できる経費等。財政的メリットは小さいように思われる。よって当町においては少子化による教育上の弊害が大きいための統合と考える。

4ページは総括表。それぞれの中学校に統合した場合の課題等を掲載。校舎については文科省の方針では、80年間はリフォームしつつ使用していくということであり、そうなると双方ともいずれは躯体調査の必要性がある。

幼保小中高の連携が注目されるなか、南伊豆東中への統合となった場合、南中小・南上小・南伊豆認定こども園との距離がある。一方、南伊豆中へ統合した場合はこども園から高校までの接続が可能。

津波被害については、レベル1.2の津波で南伊豆東中の周辺は浸水するが、校舎は浸水しない。南伊豆中においては浸水エリア外。

以上。

- 岡部議長 意見、質問等あればお願いしたい。
- 白井委員 校舎の古さが10年くらい違う。
- 白井係長 そのとおり。
- 白井委員 生徒の通学費は町で全額負担か。
- 白井係長 小学生は4 km 以上、中学生は6 km 以上の通学距離があれば、今はそうである。
- 白井委員 今、岡部町長となって、高校生の通学費まで支援しているなかで、小中学生に半分負担しなさい等とはいえないであろう。
- 白井係長 新下田中学の動向が一つの指針となりそうである。統合審議会等を注視していく。
- 岡部議長 バス会社に委託してスクールバスを運行するのも一つの手ではある。
- 下村委員 通学距離が延びるということは、6 km 以上通学となり国の補助対象となる地区が出てくる可能性がある。
自転車通学の可能性はどうか。
- 岡部議長 自転車通学は、南伊豆中の場合は差田、旧三坂中学校区はバス。二條辺りは少しだけ手前であるが自転車通学である。
- 下村委員 自転車通学をもっと認める方向で行くのか。
- 岡部議長 当然あると思う。
- 白井係長 スクールバス、路線バス、自転車、保護者送迎、様々な手法が考えられるが、財政的にも無駄のないようなものにしたい。煩雑ではあるが。
- 下村委員 朝部活についても、全国的な流れで、部活動自体の時間削減であるとか、日数制限とかが言われているなかで、朝早いバスを運行する必要もなくなるのかなという気もする。
- 井上委員 バスダイヤについて、路線バス会社に通学に合わせてダイヤ変更してもらうよう町から強く要請できないのか。

下村委員 現実的に、2、3ページの表を見たとき、近隣市町の動向も含めて、平成何年くらいのところを目途に統合と構想して、それをある程度公表して、それをやるとかなり前からの準備になるわけだが、そのあたりまでスケジュール的にみているのか。

大野事務局長 3ページの表で2022年では拙速な気がする。私的見解では遅くとも2029年までにはやりたい。2029年よりも前倒しになる分には問題ないかなと思いつながら、今回初めて中学の統合について資料を出して考えていこうとしたところである。

臼井委員 時期は、数字（生徒数）で押していけるのではないか。次は、南伊豆中か南伊豆東中かという点、通学費、校舎等を考えると自然と回答が出てくるのではないか。

岡部議長 この表を見るかぎりだと、2022年あたりがカギとなってくるのではないか。南崎小と竹麻小が統合するときも保護者の話ではどうせ中学で一緒になるんだから、どんどん統合してもらいたいという保護者もいた。それが多くの意見ではないかもしれないが。実際、発表当初は反対意見もあるかもしれないが、その後は、そのように対応してもらえる。ただ、一番問題なのは通学の問題なので、それはバスを出すとか考えなければいけない。

臼井委員 自転車通学の範囲も広げることを考えるべき。

下村委員 下田は稲生沢中、下田東中あたりは校舎の建築からかなり経過しているのであろう。

佐野教育長 4校を1校とするので、学級数も一時的には増えるので教室が足りない事態も出てくる。

下村委員 中学校の教育課程のなかで、人数による教育効果というものを強くアピールするという考え方で進めていくしかないのでは。

佐野教育長 どこを中心にものを考えていったらよいかを考えると、やはり授業である。教科指導がしっかりできる人数、体育等では10人台では厳しいというのが本音。

グループ学習をするにも3～4組しかできない。そのあたりだと中学では弱さが出てくる。

- 下村委員 少人数指導が良いというが、それだけではない。
- 佐野教育長 2026年には、南伊豆中もガクンと減る。ここが言わば限度の年。その前のガクンが町長が言われた2022年。2023年の南伊豆東中の52人が厳しい数字かなと思っている。
考え方の基本として部活の問題もあるが、授業がきちんとできる適正な人数というのを一番の柱にしていきたい。
- 岡部議長 南伊豆東中の1学年14人というのも男女バランスが必ずしも良いとは限らない。
- 白井委員 いずれにしろ、統合は時間の問題。
- 佐野教育長 ただ、準備期間が必要である。どのへんで踏み切るかが問題である。
- 白井委員 教育委員会で先導して、いついつの予定ですよというのを出さないと、賛成も反対も出てこない。ある程度の情報を出すことは必要ではないか。
- 岡部議長 仮に2025年に統合させるとしてそれが早まるよりは、流れとしては遅れる方がいいと思う。
- 下村委員 統合は審議会を立ち上げるのか。
- 大野事務局長 統合審議会を開催する。ただ、それを開催するまでには、内部でも詰めておく必要がある。
- 下村委員 今ある審議会とは別のものか。
- 大野事務局長 同じものである。教育委員会からどここの統合についての審議依頼が来てそれに答申する形である。
委員は人選し直しとなる。
- 白井係長 場合によっては、地区説明会を開催するくらいの話かもしれない。
- 岡部議長 学校がなくなると地域が廃れるとの話が出るが、地域のことも大事であるが、こどもの教育のことを一番に考えてほしいということを理解してもらいたい。

白井係長 統合には、賛成の方が多いと思うが、問題はどちらに統合するか、こういう理由でこちらに統合するという資料集めに尽きる。

岡部議長 また、そこまで考える必要はないかもしれないが、廃校となった学校をどのように活用していくか、その案が出せれば地域の方の理解が得られるのではないかと。確定でなくても方向性だけでも出せればよいのだが。

佐野教育長 文化財の展示場が欲しいところ。

岡部議長 博物館のようなもの。静岡南高校は統合されて廃校となり、素晴らしい博物館になっている。

白井係長 6年後には小学校についても98人で南伊豆東小が一番大きな小学校となる。南中小は91人。そうすると南上小の統合の際、2つ複式学級が出る見通しになった場合、統合に向けて協議をするとの方向性を示したが、状況が変わってくる。地区説明会の際は、小学校の統合についても質問が出てくる可能性がある。

井上委員 親の立場からすると、人数の少ないところでやるよりも集団行動がとれるところでやったほうが良いという人のほうが多いと思う。

岡部議長 とりあえず、今回は中学校を先行させて、小学校も検討はしなくてはいけないくらいの発言としたい。

中学校の統合問題については、引き続き事務局にて更なる検討を進めていただきたい。

岡部議長 次の議題に移る。「南伊豆町教育大綱について」事務局の説明を求める。

大野事務局長 次年度が教育大綱の改定の年度となるため、次年度からはお手元に配付済みの「南伊豆町の教育」の名称を変えて「南伊豆町教育大綱」とし、毎年施策等の小改正を実施していきたいと考えている。

岡部議長 方向性として原案のとおり進めることでよろしいか。

《 全員了承 》

岡部議長 それでは、次年度からの教育大綱は、そのような形で進めていく。以上で、議事は終了。

進行を事務局へ返す。

大野事務局長 その他には何かないか。

白井委員 先日も新潟で女の子が連れ去られる事件があった。
下校時刻に同報無線で地域住民に見守りを周知してはどうか。

大野事務局長 どんな手法があるのか検討して考えてみたい。
次回の総合教育会議は11月か12月に予算編成の関係で開催する予定。

大野事務局長 閉会宣言

15:14 閉会

記事録署名人 岡部克仁

記事録署名人 佐野 蓮

記事録署名人 大野孝行